

事務事業名 御前湯高齢者入湯料一部負担事業

出力日：令和04年03月15日

キーコード：1241

施策：	10	高齢者福祉の充実 ～地域包括ケアシステムの推進～	財務コード	01030102-12-00
基本事業：	01	社会参加と生きがいづくり	担当部	健康福祉部
基本事業の成果指標	地域活動等に参加している高齢者の割合 生きがいを持っている高齢者の割合		担当課	高齢者支援課
			担当係	高齢者福祉担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成20年度 ～		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市内居住の65歳以上の高齢者			市内居住の65歳以上の高齢者で、施設利用時に「御前湯利用証」を提示すると、割引料金で利用できる。 入湯料 150円 通常料金250円のうち100円を市が負担。 御前湯利用証 市民課で申請すると発行される。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			令和元年度及び2年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防から、臨時休館や時短営業を実施した。							
高齢者が利用しやすい入浴機会を設け、高齢者の健康増進と孤独感の解消の一助とするとともに、高齢者福祉の向上を図る。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	01年度 実績	02年度 実績	03年度 当初	04年度 要求	05年度 計画	06年度 計画	目標	
65歳以上入湯者数		人	52,839	38,454	58,100	55,000			65,000	
5. コスト										
事業費		計	千円	5,283	3,845	5,810	5,500			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	0	0	0	0			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0			
一般	千円	5,283	3,845	5,810	5,500					
正職員人工数		人工	0.03	0.03	0.03	0.03				
正職員人件費		千円	242	241	238					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	5,525	4,086	6,048	5,500				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		【状況】利用者数はH28年度以降、減少しているが、令和元年度及び2年度はさらに減少した。 【原因】H28年度に実施した利用料及び個人負担金の値上げによる利用者の減少に加えて、新型コロナウイルス感染拡大予防から、臨時休館や時短営業を実施したため、利用者はさらに減少している。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	増加	類似事業	なし	H28年度から利用者が減少しており、市の負担金の増額、対象年齢や高齢者が利用しやすい利用証の発行について等を関係機関と協議していた。コロナ禍により、積極的に利用推進する時期ではないと判断し、対応は保留している。						
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地あり							
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり							
成果向上余地	大きい									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
・コロナ禍の状況が落ち着いたら、武蔵財産区をはじめとした関係機関との協議を再開し、対応できるところから見直し、本市の温泉施設の利用推進及び高齢者の健康増進を図りたい。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
福祉センター御前湯の運営について、平成20年度より筑紫野市社会福祉協議会から武蔵財産区が行うことになる。 市内居住の65歳以上の高齢者の半額免除について、市の高齢者福祉事業として継続するために、平成20年度より本事業を開始した。武蔵財産区への移管にあたり武蔵財産区と協議し協定締結。						平成28年11月1日から入湯料200円から250円に改定。市はそのうちの100円を負担している。（市負担分は変更なし） 令和元年・2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により、一定期間臨時休館や時短営業を実施した。				